

◆特集 命を軽んずる医療制度の改悪

75歳、入院・手術を経験して

東京都田口勝義



頸髄症に

私の体調不良（手の痺れ・痛み）が、ここ2～3年の間続いていました。昨年12月末、近所の整形外科（Rクリニック）を受診。CT検査の結果「頸椎5・6番目に異常あり」との診断、リハビリ（両手の低周波治療と首の牽引）を続けるも一向に改善しませんでした。

それで、かかりつけ医であるS医師に相談したところ、J病院・整形外科E医師を紹介していただき、3月13日に受診、すぐにMRI検査「頸椎の5カ所に病巣と神経の圧迫」があるとの診断であり、Rクリニックとはまるで違った診断内容でありました。

E医師からは「これは、薬でもリハビリでも治らない」と言われ、そこで手術の話もされましたが、75歳という年齢もあり、E医師には「手術はやらない」と告げました。

E医師は「この手術は、私しかできない手術」と言っていました。が、次回の診察である6月9日までの3か月間、痺れ・痛みをこらえながらの生活でした。

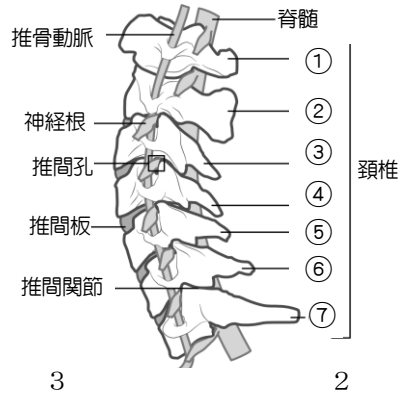
その間、医師である息子と「手術」に関して話し合いをしました。6月9日の再診時には「もう手術しかない」と考えて、E医師に手術をお願いしました。

E医師に、6月12日入院・15日手術という予定を組んでもらい、無事に手術を終え29日に退院できました。病名は「けいずいしやう頸髄症」。因みに、手術は「けいづい、ついきゆうけいせいじゆつ頸椎椎弓形成術」。

気になった差額ベッド料金

どこの病院でもあります「が、J病院にも「差額ベッド」の個室がありました。その室料は次の通りです。

1 特室（1室）1万8700円（バス、トイレ、冷蔵庫、ロッカー、電動ベッド、ミニキッチン、テレビ、



洗面台。

個室A（6室）

1万6500円

（シャワー、トイレ、冷蔵庫、電動

ベッド、テーブル、

椅子、ロッカー、

テレビ、洗面台）。

3

個室B（9室）

1万4300円

（トイレ、冷蔵庫、電動ベッド、テーブル、椅子、

ロッカー、テレビ、洗面台）。

4 個室C（9室）1万1000円（冷蔵庫、電動ベッ

ド、テーブル、椅子、ロッカー、テレビ、

洗面台）。

5 2床室（2室）4840円（ユニットバス、冷蔵庫、

電動ベッド、ロッカー、有料テレビ、洗面台）とい

う、差額ベッドの部屋があります。

私も、入院したら個室で「誰に気兼ねなく過ごせたらいいな〜」と思っていましたが、年金生活者には、生活に余裕もなく、入院費用の心配で「差額ベッドの個室」に入るということを考えることもできない生活状況だと

思います。

医療領収証の点数について

医療費の領収証に記載してある点数について、私は、分らなかったため、点数での金額の算出方法を、息子に聞いたところ、「1点が10円」であり、記載してある点数に10倍したもので金額がわかる。例えば、私の手術の点数は、11万5902点でした。これを10倍すると、115万9020円という手術費用がわかる。

何気なく医者に行き、点数の明細をもらってききましたが、明細の内容も理解していなければならぬと思いました。今回の入院の費用は、手術、食事代等を含めての支払いは、8万4000円でした。6月であつたので自己限度額引き上げから免れました。

誤診に注意

今回私は、2箇所の整形外科で診察してきましたが、CT検査とMRI検査とでは「誤診」がありました。きちんとした医療機関での診療・診断を私たちも心掛ける必要があると思いました。（たぐち かつよし）